

平成 30 年度入学式 式辞

新入生の皆さん、本日ここに至るまでには、さまざまな経験を重ね、さまざまな思いを胸に抱いて生活してきたことでしょう。それは世界にひとつしかないあなただけの物語です。そして、これから新たな志を携えて物語を紡ぎ続けていくのです。

本日こうして入学式を迎えることができたのは、あなた自身の努力の賜であることは確かですが、これまで、あなたのことを励まし、支えて下さった周囲の方々のお陰であることを改めて胸に刻み、感謝の気持ちを持ってください。

啓北商業高校を選択したときの「こころざし」を忘れないでください。「こころざし」とは、「自分の心を目標へ差し向ける」こと、さらに、「ヒトやモノ、コトに気持ちを向ける」という意味があります。

誰かに心に向けてもらったら、とても嬉しく感じるものです。その気持ちを受け取って元気や勇気がわいたら、自分の心の中だけにとどめておかず、今度は誰かに心に向けてください。

私が高校時代に巡り会い、今も時々思い出す詩があります。タレントであり随筆家であり作詞家でもあった永六輔氏の「生きているということとは」という詞を紹介します。

生きているということとは 誰かに借りをつくること
生きているということとは その借りを返していくということ
生きていくということとは 誰かと手をつなぐこと
人は一人では生きてゆけない 誰も一人では歩いてゆけない
生きているということとは 誰かに借りをつくること
誰かに借りたら誰かに返そう
誰かにそうしてもらったように誰かにそうしてあげよう

啓北商業高校は、ありたい自分、なりたい自分を思い描き、明るく元気に、懸命に努力する生徒を応援し続けてきました。時には辛いことや苦しいこともあるでしょう。そんなときこそ、啓北商業高校はあなたに心を向けます。この会場にいらっしゃる大人の皆さんも、様々な恩を受けて今日に至り、その恩を次の世代に返しているのです。ここにいる新入生は、共に手を携えてゆく仲間です。教職員もあなたを応援します。これまで本校に手を差し伸べてくださった地域や市民、企業の方々もあなたを応援して下さいましょう。

受けたご恩はいつか社会に返してください。それが大人になるということです。今は何も返せなくても、「ありがとう」という言葉を相手の心に届けてください。最後に、私からもあなたに伝えたい言葉があります。この札幌啓北商業高校を選んでくれてありがとう。今日から共に学んでいきましょう。

平成30年4月9日

市立札幌啓北高等学校 校長 鈴木 恵一